

## 年頭所感



### “環境・活力・活用の3Kを!!”

(社)日本技術士会北海道支部 支部長  
技術士(応用理学/総合技術監理部門)

大島 紀 房

明けましておめでとうございます。と言いながら心に重苦しい余韻が残る新年である。昨年のマスコミ各誌の今年の10大ニュースを見ても、その7~8割りが暗い出来事である。その一つ、100年に一度と言われるアメリカに端を発した金融危機はアツという間に世界中を駆け巡った。日本でも世界のトップクラスといわれる電気・精密機器業界、自動車製造業界の派遣切り、リストラが相次ぎ年末には各地で「年越し派遣村」のニュースが胸を痛めた。

これを見越して、本年度予算の重点課題は、①国民の生活を守る ②環境に配慮した低炭素社会の構築 ③徹底的に無駄を排除、した予算とされるが、与党・野党の駆け引きではなく、国民の代表としてしっかり審議して欲しいものだ。

このような中、支部として本年度の重点活動目標を【環境・活力・活用】の3Kとしたい。

- (1)「北海道洞爺湖サミット」を契機とした地球環境運動のリーダーとして
- (2)開発局、道、経産局が掲げる「魅力と活力ある地域づくり」
- (3)これを可能にする「技術士活用範囲の拡大」

以上の活動を推し進めたい。

(1)は日本にとっても、北海道にとっても大きな期待がもたれたサミットではあったが、温室効果削減に対する先進国と発展途上国の意見の食い違いにより、「霧のサミット」と呼ばれるように大きな成果は無かった、との評価が多い。続いて開催されたポーランドでのCOP14でも、数値目標が組み込まれず、

かえって日本は発言内容が後ろ向きと捉えられ、環境NGOでつくる組織から不名誉な「化石賞」が贈られた。しかし「新たな北海道総合開発計画」に示されているように「地球環境時代を先導し自然と共生する持続可能な地域社会の形成」は正に北海道がその先導的役割を担う絶好のチャンスである。支部、技術士個人としても積極的活動を進めたく昨年7月に『ECO宣言!』を発信させていただいた。その第1歩として札幌商工会議所を中心とする社会活動「ECO宣言行動」は私達技術士が社会に認知されていくためにも積極的に参加していきたい。

(2)は北海道が「我が国課題解決の地」となる最重要課題の一つである。私達業界、企業もすでに取り組み実績を挙げている分野であり、今さら説明の余地は無いが、当支部においても活動が最も盛んな範囲である。特に産学官を中心にした、食料供給力、雪冷熱の活用、バイオエネルギー、観光産業など地方技術士会を中心に活動を期待したい。

(3)技術士活用は建設関連部門で急速に拡大しつつあるものの、他の分野については、まだまだである。会員拡大は活用範囲を広げる上で重要な必要条件の一つである。全国的加入率は依然として約20%と低迷する中で、当支部は30%を悠に超え全国的にも会員加入率が高い。しかし、「技術士ビジョン21」が目指す50%にはまだ遠く、こちらも「北海道発」として先導的役割を果たしていきたい。

今年も1年健康でご活躍されますことを祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。